

うぶすな

茨木神社社報

発行所

茨木神社社務所

茨木市元町4-3

072 (622) 2346

[http://www.](http://www.ibarakijinja.or.jp/)[ibarakijinja.or.jp/](http://www.ibarakijinja.or.jp/)

命のあらたまり

今年十月に、第六十二回伊勢神宮式年遷宮が斎行されます。神宮の遷宮は二十年に一度の重儀として千三百年の昔から連綿と現代に受け継がれてきました。遷宮は大神様が新宮にお遷りされるだけでなく、御神宝、調度品などすべてのものが新しく造り替えられます。

神様をお祀りする全てのものが一新され、ここに大神様の新しい御神威の輝きの蘇りを願うとともに、いのちの連続そして永遠に変わらないところに遷宮の大きな意義があります。また遷宮は常に初心に還り、民族の始源に思いを馳せつつ、心新たに明日への希望と活力の源泉であり、古い伝統を保持しながら、清新な生命の更新をはかるものとして、繰り返されてきた民族のいとなみでもあります。

そして私たち日本人は今日まで日々の祭や季節ごとの祭の繰り返しにより、いのちを新たに、清らかにして少しでも御神意に沿うように努力してまいりました。

これからも、神様からこの世に生を享けたことに感謝し、誠の祈りを捧げ、明るく正しいところで神様から与えられた使命を、全うしていかなければなりません。それこそが神さまのみこころにかなう、唯一の道であるからです。



切り絵 比企善彦作

日本の偉人

新渡戸 稲造

新渡戸稲造は、文久二年（一八六二年）に岩手県盛岡南部藩に代々仕える武家に生まれました。

札幌農学校（現北海道大学）を卒業後、明治十六年、東京大学に進んだ新渡戸は「われ太平洋の橋とならん」と願います。

その後ドイツ留学中、ベルギーの法学者から「日本の学校では宗教教育がなされないと云うが、ではどうして道徳教育をしているのか」と問われ即答できませんでした。そして、日本人に善悪の道徳観念を教えているものは武士道であったと気付きます。

「日本の思想を外国に伝え、外国の思想を伝える橋になりたい」と考えていた願いは、明治三十二年英語で書かれた「BUSHIDO」（『武士道』）がアメリカで出版され実を結びます。それは、アメリカ人メアリーと結婚していた新渡戸が愛妻に語った「日本の思想や風習」をまとめたものでもありません。

した。

新渡戸は、武士道には七つの徳（義・勇・仁・名譽・礼・忠義・誠）があり、正義と勇氣を求め、名譽を重んじ、節制と恥の観念を大切にすると説きました。

神道にも造詣が深く本書の中でも「仏教が教えなかったものも多くを伝えたのが神道である。他の宗教では説いていない『天子への忠誠』『祖先への敬意』『親への孝行』の三つの教えが神道では教えられ、これにより、ややもすると傲慢になる武士の性格に忍耐が教え込まれた。（略）神道は生まれながらにして善の存在を信じ、人間の魂は神のように清浄なものであり、人の魂を神の言葉が宿る聖なる場所として崇拜する。…」と述べ、また神社の神前に設けられている鏡について「鏡は人間の心を映し出すもので、心が穏やかで澄んでいれば、そこに心に宿った神の姿を映し出すというわけだ。」

と神社に参拝することにより自分を知らんと述べています。

明治三十八年日露戦争の講和を斡旋したアメリカのセオドア・ルーズベルト大統領は、ハーバード大学同窓の金子堅太郎から「BUSHIDO」を贈られ深く感銘を受け、本を大量に買い子供や友人の他陸軍士官学校・海軍兵学校の生徒にも薦めました。また、発明王エジソンも大いに啓発されたと伝えられています。最近では、

映画「ラスト・サムライ」主演のトム・クルーズがクランクイン前に読み日本への認識を新たにしたと言われています。「BUSHIDO」は、ドイツ語・フランス語・ロシア語など数力国語に翻訳され、欧米知識人が日本人の精神性を理解することに貢献しました。

京都大学教授、東京女子大学初代学長など教育者としても有名で、能楽、邦楽、哲学の博士号も取得しています。学界、政界、実業界で日本の礎を築くことになる多くの有力者を輩出しました。さらに、国際連盟事務次長、貴族院議員などその活躍は内外に及び、その功績は今も色褪せていません。

献詠 火串会

宮裏の日差しにふぶ唐の梅

倉垣刀美子

初苗生駒金剛鎮もりて

浅谷加代子

みちのくの児へ寄す御歌今朝の春

岡田 晴江

初富士は雲に隠れて車窓かな

小野 晶子

石畳濡れて御降止んでゐし

倉垣 政一

句の絆通ふ宮居の初句会

田中美佐子

雲龍の祝門なり年明くる

谷本 房子

おみくじを枝に結びし初詣

橋下 祥子

肩車下ろして破魔矢授かりし

長谷川ゆたか

宮の梅蕾の見える希望わく

林 曜子

初神楽巫女の緋袴日に映えて

武藤千代子

鈴の緒の白かぐはしや初詣

森脇甲子朗

人波のうねりの中を初詣

八木 徹

暗き世にはのぼのとあり福寿草

山本 尚一

シリーズ神道

『伊勢参り』

私達は日常、「おかげさま」或いは「おかげをもちまして」と挨拶しますが、この言葉の中には相手の親切などに対するお礼ばかりでなく、全てのものに対しての感謝の気持ちが込められています。

江戸時代に入り全国にお礼を配ったり、伊勢参りの便宜を図った「御師」の働きもあって伊勢の神宮は聖地として崇められ、誰もが一生に一度は参拝したいと思われるようになっていきました。

その当時、伊勢神宮へお詣りするのには現代と較べて交通も不便であり、江戸から片道十五日、京都・大阪から片道五日、東北地方からは凡そ百日も掛けて歩いてお参りをするのですから、旅費もかなり掛かり、庶民にはお詣りしたいという気持ちを持ちながらも日常生活ではそれだけの大金を用意するのは相当地に困難でありました。また、江戸時代、庶民の移動には厳し

い制限が有り、自由に旅をする事は許されなかったが、特に伊勢参りに限っては特別に許されていた。

そのために、江戸時代に入り最も盛んに活用されたのが「伊勢講」という仕組みで、「講」の所属者は定期的に集まってお金を出し合ったり、共有の田畑や山林からの収益を経費に充てました。伊勢へは「講」の代表二、三人で行くのが通常でした。

江戸時代の人々が貧しくとも神宮に参詣できたのは、この「講」の仕組みによるところが大きいでしょう。「伊勢講」が無かった地域では、周囲からの餞別が旅行費の大半を占めていました。

一方、お蔭参りは、「抜け参り」とも言われ、女性・子供・奉公人が伊勢神宮参詣の旅をしたいと申し出た場合には、親や主人はこれを止めてはならないとされてきました。たとえ親や主人に無断でこっそり旅に出ても、伊勢神宮参詣をしてきた品物（お守りや神札等）を持ち帰れば、お咎めは受けない事になっていきました。また、道中の宿々や村々では治安を守るため

に富豪達が金品の施しを行ない、無銭でも無事に伊勢まで辿り着く事ができました。その他にも握り飯の振る舞い、わらじの無料配布、農耕馬を使った人の運搬などの便宜を受ける事ができたのです。

寺子屋関西

セミナー開催

「いまこそ学びたい。偉人伝から日本語まで」をテーマに平成二十四年十月より茨木神社参集殿で寺子屋関西のセミナーが開催されています。（毎月一回全十回を予定）

寺子屋関西とは、教育再生・日本再生をめざし偉人伝講座を中心とした「あちこちの寺子屋」を実施し、「現代版寺子屋」の設置を全国に提案されている榎寺子屋モデルで「寺子屋の先生養成講座」を受講し認定された方を中心に組織されました。

第一回は、平成二十四年十月に榎寺子屋モデル社長山口秀範先生が「日本の子供の現状と寺子屋という活動について」、第二回は、寺子屋関西主催者で追手門学院大

「お蔭参り」は伊勢踊りの爆発的流行をもたらし、また、一生に一度の伊勢参りは、封建社会にあって「上方めぐり」を兼ねた大旅行ブームをもたらせたのです。

学客員教授の牧美喜男先生が「私達が生きている現代を考える」第三回は、寺子屋の先生養成講座第五期卒業の川村雄規先生が「外から見た日本」と題してお話しされました。一月からは第三土曜日午後六時より八時まで七回の開催を予定しています。

社務所に簡単なパンフレットをご用意しております。ご興味のある方はぜひご参加ください。また致知出版社から榎寺子屋モデル編著『日本の偉人100人』上・下巻が発売されました。社務所でも取り扱っております。



写真で見る

茨木神社今昔 ②

昭和49年(1974年)天石門別神社御造替の折り皇大神宮・愛宕神社も御造替されました。



昭和4年(1929年)昭和の御大典記念に本殿内陣の御帳台の新調をはじめ本殿・幣殿・拝殿屋根が銅板に葺替えられました。



昭和41年(1966年)旧社務所が建て替えられ、二階には結婚式場・写場を備えた儀式殿がつけられました。



当社の休憩所(牟波良岐舎)ギャラリーでは、このような昔の茨木神社の写真をはじめ祭典・四季の風景・神社所有の文化財の写真など随時入れ替え、パネル展示しております。
ご参拝の折りにどうぞご覧下さい。

これからの主な行事

十二月三十一日 越年祭

一月一日

歳旦祭 午前十時

一月九日〜十一日

十日戎祭

一月十五日

御火焚(とんど)

祈禱木奉焼祭

二月三日

節分祭・鎮魂星祭

二月九日 初午祭

二月十一日 紀元祭

四月八日 人形奉焼祭

四月十八日

春祭(祈年祭)

奉賛会厄除安全祈願祭